

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2016 年 5 月～2017 年 4 月

歴史地震研究会幹事会

目次

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2016年5月～2017年4月)と今後の予定	137
2. 第33回歴史地震研究会(2016年9月11～13日, 大槌大会)関係	137
・ 第33回歴史地震研究会報告	
・ 第33回歴史地震研究会総会議事録	
3. 幹事会議事録	142
・ 2015年度第6回幹事会(2016年5月20日)議事録	
・ 2015年度第7回幹事会(2016年8月10日)議事録	
・ 2016年度第1回幹事会(2016年9月9日)議事録	
・ 2016年度第2回幹事会(2016年11月7日)議事録	
・ 2016年度第3回幹事会(2017年4月10日)議事録	
4. 第34回歴史地震研究会(2017年9月15～17日, つくば大会)関係	146
・ 第34回歴史地震研究会申し込み案内	
・ 第34回歴史地震研究会プログラム等	
5. 各種お知らせ・資料	147
・ 『歴史地震』原稿募集のお知らせ	
・ 歴史地震研究会会誌編集規定(2016年4月22日一部改定)	
・ 歴代研究会開催地一覧	
・ 諸手続き(入会・住所等変更など)のご案内	
・ 歴史地震研究会会則(2015年9月22日改正)	
・ 歴史地震研究会功績賞内規(2014年9月8日変更)	
・ メーリングリスト musha の使い方と規約(2014年4月2日改訂)	
・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2017年6月1日現在)	

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2016年5月～2017年4月)と今後の予定

2016年

- 5月20日(金) 2015年度第6回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 8月10日(水) 2015年度第7回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月9日(金) 2016年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月11日(日)～13日(火) 第33回歴史地震研究会(岩手県大槌町 大槌町中央公民館)
 - 11日 ワークショップ, 研究発表会
 - 12日 研究発表会, 総会, 懇親会
 - 13日 巡検
- 11月7日(月) 2016年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2017年

- 4月10日(月) 2016年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月15日(金)～17日(月) 第34回歴史地震研究会(茨城県つくば市 つくばイノベーションプラザ) = 予定

2. 第33回歴史地震研究会(2016年9月11～13日, 大槌大会)関係

第33回歴史地震研究会報告

2016年9月11日(日)から13日(火)の3日間にわたって, 大槌町にある大槌町中央公民館を中心に, 第33回歴史地震研究会を開催しました。大槌町との共催です。1日目にワークショップ「大槌町津波アーカイブに向けたワークショップ」と研究発表会(ポスターセッション)、2日目に研究発表会と総会を行いました。また, 3日目には, 大槌町の津波被害と復興をテーマに, 大槌町内の昭和三陸津波および東日本大震災に関する高所移転集落や石碑を巡る巡検を実施しました。

研究発表会には, 52名の参加があり, 25件(口頭21件, ポスター4件)の発表が行われました。また, 現地見学会には35名, 懇親会には39名, ワークショップには54名の参加があり, 盛会のうちに研究会を終了することができました。

プログラム

◎9月11日(日)

伝統芸能「虎舞」鑑賞

ワークショップ「大槌町津波アーカイブに向けたワークショップ」

【研究発表会】会場:大槌町中央公民館(大会議室) 発表者名に*を付けた方が登壇者です。

ポスターセッション 1 回目

ポスター発表 1 回目(17:15~17:45)

- P-1. 久永哲也*・内田篤貴・小川典芳・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄
明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その5)
- P-2. 中村亮一*・村岸 純・西山昭仁・佐竹健治・石辺岳男
関東地域の異常震域の再検討-1855年安政江戸地震の震源像解明に向けて-
- P-3. 谷川 亘*・浦本豪一郎・内山庄一郎・折中 新・山品匡史・原 忠
高知県の地震津波碑の保全に向けたデジタルアーカイブ化計画
- P-4. 原田智也*・佐竹健治・古村孝志・室谷智子
地震直後に行われたアンケート調査による1948年福井地震の震度分布

◎9月12日(月)研究発表会・総会・懇親会

口頭発表 1. 江戸時代以前の地震(9:30~10:15)

- 1-1. 河内一男*
砂丘中の埋没樹と大津波伝説
- 1-2. 松岡祐也*
1586年天正地震による木曾川河口の被害 - 長島・桑名の地震被害について -
- 1-3. 松崎伸一*・日名子健二・平井義人
文禄五年豊後地震における沖ノ浜の津波高7ブラサの検証

口頭発表 2. 江戸時代の歪集中帯における地震・津波(10:15~11:00)

- 2-1. 小田桐(白石)睦弥*
寛政西津軽地震(1793)による被害について
- 2-2. 都司嘉宣*・小田桐(白石)睦弥・松岡祐也・佐藤雅美・今村文彦
百井塘雨著「笈埃随筆」に記された海嘯について
- 2-3. 西山昭仁*
文政京都地震(1830年)における京都盆地での被害評価

口頭発表 3. 近現代の地震・熊本地震・歴史地震一般(11:15~12:30)

- 3-1. 石辺岳男*・松浦律子・岩佐幸治・佐竹健治
気象庁震度データベースの有感余震記録から大地震の震源域推定は可能か?
-歴史地震への適用可能性の検証-
- 3-2. 武村雅之*
石碑が語る震災復興:関東大震災
- 3-3. 中井春香*・武村雅之
1945年三河地震の断層近傍における死者数と全潰数の分布
- 3-4. 今村隆正*
熊本県の歴史地震と土砂災害
- 3-5. 宇佐美龍夫*
歴史地震の震度について

【歴史地震研究会総会】13:30~14:30

ポスター発表 2 回目(14:30~15:15)

口頭発表 4. 安政東海地震(15:30~16:15)

- 4-1. 松浦律子*・田中 圭・中田 高・田力正好・松田時彦
蒲原地震山再考 史料・地形・地球物理学的総合検討
- 4-2. 都築充雄*・平井 敬・中井春香・山本真一郎・倉田和己
安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その2)西三河南部
- 4-3. 行谷佑一*・宍倉正展
富士川西岸における安政東海地震以前の洪水被害

口頭発表 5. 三陸の地震津波(16:15~17:00)

- 5-1. 柳澤和明*
貞観地震・津波の発生時刻，潮汐の影響と記事の特異性
 - 5-2. 相原淳一*・高橋守克・柳澤和明
東日本大震災津波と貞観津波における浸水域に関する検討
 - 5-3. 蝦名裕一*
1611 年慶長奥州地震津波の歴史的評価について
口頭発表 6. 安政江戸地震(17:00～17:30)
 - 6-1. 村岸純*・西山昭仁・矢田俊文・榎原雅治・石辺岳男・中村亮一・佐竹健治
1855 年安政江戸地震における遠地での有感記録と関東における地震史料データベースの構築
 - 6-2. 中村 操*・松浦律子
1855 年安政江戸地震の出火点と延焼域の再検討
- 懇親会 18:30～20:30(会場:大槌町三陸花ホテルはまぎく)

◎9月13日(火)

【巡検】8:30～14:50

第33回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2016年9月12日 13:30～14:10

場所:大槌町中央公民館大会議室

1. 定足数確認

歴史地震研究会会則第18条により、総会は会員の10分の1の実出席を要すると定められている。現在の会員数306名、本会場内にいる会員数は48名で、定足数を満たし総会の成立を確認した。(林能成総務幹事)

2. 松浦律子会長挨拶

3. 議長選出

林総務幹事より谷川亘会員を議長に推薦。谷川亘会員が議長に選出され、ここからは議長が進行を務める。

4. 谷川議長挨拶

5. 第一号議案 2015年度事業報告および決算報告

(1) 研究成果発表会および講演会について(小松原副会長)

第32回歴史地震研究会(京丹後大会)の開催について、第一号議案1.(1)①により説明。他の学協会が主催する行事を1件後援したことを、第一号議案1.(1)②により説明。本大会(第33回歴史地震研究会;大槌大会)の開催に向けての準備について、第一号議案1.(1)③により説明。

(2) 会誌の刊行について(林豊編集出版幹事)

『歴史地震』第31号を2016年5月に発行したことについて、第一号議案1.(2)により説明。

(3) 広報活動について(松浦会長)

迅速な情報提供のため、歴史地震研究会のホームページ、メーリングリスト musha の管理・運営をしたこと、他学会への大会の告知をしたことについて、第一号議案1.(3)により説明。

(4) 業績の表彰、2015年度のその他の事業について(林能成幹事)

京丹後大会で功績賞を上田和枝会員に授与したこと、および、今年度は功績賞授賞者をしなかったことについて、第一号議案1.(4)により説明。

その他、研究会の各事業を行うために付随する活動として、大会中の総会1回と幹事会7回を行ったことを、第一号議案1.(5)により説明。

(5) 2015決算報告について(松浦会長)

第一号議案2および以下の入退会者数の資料により、2015年度の収入と支出、京丹後大会の収入と支出を報告。

(6) 会計監査報告(諸井監査役、北原監査役)

2015年度取支決算報告の監査を行い、予算の執行、帳簿、証票の整理等、正常適正に処理されていることを確認した。

以上の報告をもとに質疑をしたが質問はなかった。

(議長)第一号議案 2015年度事業報告および決算報告を承認してよいか？

拍手で承認。

歴史地震研究会 2015年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2016年度納入会費	915,000	730,000	▲ 185,000	180名×4,000円、1名×5000円、5名×1000円
	2015年度以前会費	0	309,000	309,000	103名×3,000円
	会誌バックナンバー売り上げ	0	44,354	44,354	会誌、予稿集代
	会誌口絵代	50,000	50,000	0	22000×3件次年度
	銀行利息	0	23	23	三井住友
	京丹後大会剰余金	0	28,841	28,841	
	2016年度大槌大会参加費等	0	1,061,200	1,061,200	未清算金
	前年度繰越	1,257,464	1,257,464	0	
合計	2,222,464	3,480,882	1,258,418		

支出	歴史地震31号印刷代	705,000	641,142	▲ 63,858	470部,送料・振込料込
	同編集費	25,000	15,540	▲ 9,460	査読料,編集補助,振込料込
	HP管理費	13,000	12,216	▲ 784	振込料216円込
	会議費	200,000	192,740	▲ 7,260	
	功績賞関連費	100,000	60,000	▲ 40,000	
	歴史地震アーカイブ費	100,000	0	▲ 100,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	50,000	39,089	▲ 10,911	
	2015年度京丹後大会関係費	30,000	0	▲ 30,000	
	2016年度大会関係費	50,000	0	▲ 50,000	
	2017年度大会関係費	20,000	0	▲ 20,000	
合計	1,293,000	960,727	▲ 332,273		

次年度繰越金	929,464	2,520,155	1,590,691
--------	---------	-----------	-----------

2015年京丹後大会 収支

	項目	金額	内訳
収入	参加費(会員)	80,000	1000円×80名(免除2名(無料)、招待4名を除く)
	参加費(非会員)	32,000	2000円×16名
	懇親会会費(一般)	409,500	6500円×65名
	巡検参加費	274,500	6000円×48名
	巡検案内書	7,000	500円×14冊
	講演予稿集	3,000	1000円×2冊
	合計	806,000	

支出	予稿集印刷代	93,766	130部,消費税等
	懇親会代金	384,000	参加人数65名
	会場使用料	0	
	巡検費	277,053	保険料,昼食代等
	アルバイト代	20,000	受付1名×2日 10000円×のべ2日
	講演会講師謝金	2,340	交通費
合計	777,159		

収支差額	28,841	剰余金
------	--------	-----

6. 第二号議案 会長選出

歴史地震研究会会則第16条第1項および付則第2条に基づき、幹事会の推薦を得て、現会長である松浦律子氏から歴史地震研究会会長に立候補の届け出があった。以上、報告する。(林能成総務幹事)

(議長)立候補した松浦律子氏を次期会長として選出してよいか?

拍手で承認。松浦律子氏を会長に選出。

7. 第三号議案 監査役選出

監査役の定数は2名。歴史地震研究会会則第16条第3項および付則第3条に基づき、幹事会として中村操氏および植竹富一氏を次期の監査役に推薦するとの届け出があった。以上、報告する。(林能成総務幹事)

(議長)推薦があった中村操氏と植竹富一氏を監査役として選出してよいか?

拍手で承認。中村操氏と植竹富一氏を監査役に選出。

8. 新会長挨拶と役員指名

次期の松浦律子会長より挨拶。2016年度の役員は、副会長に小松原琢氏(留任)、幹事は総務委員長に林能成氏(留任)、財政委員長に内田篤貴氏(留任)、広報委員長に石辺岳男氏(留任)、行事委員長に宍倉正展氏(新任)、編集出版委員長に林豊氏(留任)を指名する。

各新幹事より挨拶。

宍倉次期行事委員長から挨拶および、次年度大会予定を案内。2017年9月15～17日に茨城県つくば市内で大会を行う計画をしている旨報告があった。

9. 第四号議案 2016年度事業計画および予算案

(1) 会誌の刊行

第四号議案1.(2)①により説明。『歴史地震』32号を2017年5月末頃に発行する計画である。(林豊編集出版幹事)

(2) 研究成果発表会、その他の事業、予算案

先ほど宍倉新幹事から案内があったとおり、2017年の大会はつくば市で開催する準備を行う。その他の事業計画は、昨年度と同様である。(林能成総務幹事)

予算案はこれらの事業を行うための経費と会費収入を計上した。(内田財政委員長)

歴史地震研究会 2016年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	1,224,000	306名×4000円
	口絵代	66,000	
	前年度繰越	2,520,155	大槌大会費1,061,200円含む
	合計	3,810,155	

支出	歴史地震29号印刷費	705,000	(1500円×470部,送料,諸費用込)
	同編集費	25,000	査読料+編集補助謝金
	HP管理費	13,000	
	会議費	200,000	
	功績賞関連費	100,000	
	歴史地震アーカイブ費	100,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	
	2016年度大槌大会関係費	30,000	
	2017年度大会費	30,000	
	2018年度大会費	30,000	
	2016年度大槌大会関係費未清算金	1,061,200	宿泊費等前納分
	合計	2,324,200	

次年度繰越金 1,485,955

以上の報告をもとに質疑。

(議長)第四号議案 2016年度事業計画および予算案 を承認してよいか?

第四号議案 2016年度事業計画および予算案 を拍手で承認。

10. 閉会

3. 幹事会議事録

2015年度 第6回幹事会議事録

日時:2016年5月20日(金)17:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、小松原琢(副会長)、林能成、岡村健太郎、林豊、石辺岳男(以上、幹事)、北原糸子、諸井孝文(以上、監査役)

欠席:内田篤貴(幹事)

1. 財政委員会

1) 新規入会者の承認

松浦会長から岩田克一氏の入会申請について報告があり承認した。その結果、現在の会員数は310名となった。

2. 行事委員会

1) プログラムについて下記のように決定した。

9月11日

虎舞鑑賞 14:00-14:30

ワークショップ 14:30-17:00

ポスターセッション(1) 17:15-17:45

9月12日

口頭発表(1) 9:00-12:15

昼休み 12:15-13:15

総会 13:15-14:15

ポスターセッション(2) 14:15-15:00

口頭発表(2) 15:00-18:15

懇親会 18:30-20:30

9月13日

巡検 10:00-

2) 会の準備については下記のように決定した。

- ・大槌町への後援依頼を岡村が行うとともに、事前の挨拶も行う。東大研究所については巡検途中で立ち寄ることを検討すべく、先方に打診する(岡村)。
- ・町長を懇親会にご招待する(岡村)。
- ・日本地震学会の後援を申請する。(担当:松浦)
- ・12日に開催する歴史地震研究会の懇親会がビュッフェスタイルになった場合はワークショップ参加者にも懇親会参加を呼びかける。
- ・予稿集の編集・印刷の担当は小松原。
- ・巡検資料は岡村。

3) 宿泊等の予約や手配について以下のように決定した。

- ・部屋割りについて、「はまぎく」は6部屋で確定。個人的に予約している人は別会計とすることを強調のうえ、確保している残りの部屋をキャンセルする。担当は小松原。
- ・バスは往路18人、復路24人で確定。バスの手配は岡村が担当し、WS前の町内巡検などをアレンジする。
- ・お弁当の手配も岡村が行う。

4) ワークショップのタイトル・内容について以下のことが決まった。

- ・タイトル案は「大槌町津波アーカイブに向けたワークショップ」。
- ・チラシを作成し、完成したらホームページに掲載して **musha** でアナウンス(5月中の掲載を目標にする)。
- ・チラシには「虎舞」のことも入れる。
- ・「大会案内」も作成する。
- ・WSに呼ぶ2名の有識者の交通費・謝金は研究会が支払う。
- ・WSのサポートメンバーの交通費については岡村の研究費から支払う。

3. 編集出版委員会

「歴史地震」編集状況

31号の編集は順調に進んでおり、5/20に校正を戻した。6月初旬には発送予定。

あいさつ状、会費振込用紙を同封する。

4. 広報委員会

ホームページの情報更新を行った。

大会のお知らせ第2報を地震学会ニュースレターに投稿予定(6月10日)。

5. その他

次回、幹事会で規約変更の案をまとめる。

6. 次回および次々回の幹事会の日程

2016年8月10日(水)、17時から振興会会議室

2016年9月9日(金)、17時から振興会会議室

2015年度 第7回幹事会議事録

日時:2016年8月10日(水)17:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、小松原琢(副会長)、林能成、内田篤貴、岡村健太郎、林豊、石辺岳男(以上、幹事)、諸井孝文(以上、監査役)

欠席:北原糸子(監査役)

1. 行事委員会

1) 参加者確定および支払い状況

参加状況:欠席者が1名、追加参加希望者2名でている。その結果、参加者51名、講演23件、巡検34+1名となっている。

払い込み状況:15名未納、2名不足金額あり。未払い者へ督促メールを書く(小松原)。

バスは往路中型、巡検および復路が大型で確保。席はまだ余裕あり。

2) 行事準備状況

ワークショップの参加者を確定する。参加者名簿を元に最終確認する。(岡村)

大槌町民を集めるためのチラシを3000枚印刷して配布する。チラシは町の広報と一緒に配ることを手配済み。(岡村)

WSのコーディネーターが追加で3名必要。歴史地震研究会幹事(林能成、林豊、石辺)に依頼する。

会場費はその場で現金で払う必要がある。虎舞はこちらで領収書を準備しサインをもらう準備をする。(小松原)

WS講師の謝礼。交通費+謝金とする。領収書の形式などを先方に確認する。(岡村)

アルバイトは昨年と同じく1人1日1万円とする。

12日の弁当は38個で確定した。

巡検の日の昼食は全員蒸しウニ丼とする。食べられない人への対応として、全員に「蒸しウニ丼」である旨を事前に伝えて、希望者にのみ別メニューを手配する。(松浦)

小学校への巡検謝礼はお菓子を用意する。(岡村)

往路新花巻空港への飛行機利用者を確認する。(松浦)

巡検でまわる箇所は工事を行っているため巡検者用マスクを用意する。(岡村)

巡検の出発時間は8:30または9:00の両案でバス会社と打ち合わせ中。確定次第、研究会のWebで周知。(岡村)

予稿集は80部印刷する。手配は小松原が行う。

ホテル代は金額、振込先を小松原が「はまぎく」に問い合わせる。バス代は金額、振込先を岡村がバス会社に問い合わせる。

各、金額・振込先を内田に伝え、事前に振り込むことで多額の現金を持ち歩くことを避ける。

それ以外の弁当代などは現地で清算する。

3) 2017年大会

2017年9月15日(金)、16日(土)で確定し会議室の予約を終えた。

17日(日)に巡検をやる方向。行事委員会で検討している。

2. 2016年総会の準備

2015年の第32回総会の資料をもとに総会資料案を作成した。決算報告のファイルを内田が8月末で作成し、次回幹事会前に監査も終えて資料を確定する。資料は次回幹事会で確定し、内田が印刷して現地へ持ち込むことにする。

3. 総会についての規約改正について

今後、地方開催時に総会が成立しない可能性がある。来年度、つくば大会は出席者が多くなる見込みなので、つくば大会で総会の委任状についての規約改正をはかることにする。

4. 編集出版委員会関係

1) 31号(冊子版)発行

5/31発行、6月上旬印刷所より順次送付、著者へのPDF原稿を送った。

2) 32号の原稿募集

既に原稿募集をはじめた。本号から2016年4月22日改訂の編集規定が適用される。

3) 31号のオンライン版の発行について

以下のような体制で公開することにした。

- ・冊子版と同じ暦年中に公開する。
- ・著者に配布する高解像度PDFと同じものを公開する。
- ・編集制限のパスワードをかける。

5. 広報委員会関係

ホームページの情報更新を行った。

大会のお知らせを関連学会に広報し、会の開催を広く周知した。

6. 入退会者の承認

3名(鎮目宰司氏、岩田克一氏、直井泰男氏)から入会、6名から退会届けがあった旨の報告があり承認した。入会申請書に不備がある方がいたので加筆修正を依頼する。その結果、現在の会員数は307名となった。

7. その他

懇親会、総会の司会や議長などの案を次回までに決めてくる。(小松原)

8. 次回幹事会の日程

2016年9月9日(金)、17時から振興会会議室

2016年度 第1回幹事会議事録

日時:2016年9月9日(金)17:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、小松原琢(副会長)、林能成、内田篤貴、岡村健太郎、林豊、(以上、幹事)、北原糸子、諸井孝文(以上、監査役)

1. 入退会者の承認

2名(新井健司氏、室谷智子氏)から入会、1名(宮脇昌弘氏)から退会届けがあった旨の報告があり承認した。その結果、現在の会員数は307名となった。

2. 2015年度決算および2016年度予算について

2015年度決算報告について確認した。2016年度予算については、大槌大会関係費の出費が大きくなるのが既に見込まれているので、大会運営費を例年の3万円から15万円に増やす。

3. 大槌大会の現状報告と相談事項

ワークショップへの会からの参加者は1班あたり7名程度の7班にわけた。コーディネーターは岡村のほか、歴史地震研究会から小松原、林豊、林能成の3名、岡村の研究プロジェクトから3名の7名。地元の方は居住地によって各班にわりあてる。ワークショップの詳細な案内については、コーディネーターあてに当日までにメールで送る。

巡検資料は完成した。

講演予稿集は80部印刷して現地に発送済み。座長の依頼も完了している。

4. 総会資料の準備について

総務幹事作成のものを確認し、了承した。2016年度予算、監査報告書の表を今日の幹事会での指摘を受けて修正したものを内田財務幹事が作成し、総会用に60部印刷して会場に持ち込む。

5. 編集出版委員会関係

2017年5月発行分の原稿の受け付けを開始した。

6. 広報委員会関係

ホームページの更新を行い、迅速な情報の提供に努めた。

7. 次回幹事会の日程

2016年11月または12月に第2回幹事会を開催する予定。9月中旬に日程調整を行う。

2016年度 第2回幹事会議事録

日時:2016年11月7日(月)17:00~18:15

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、小松原琢(副会長)、林能成、内田篤貴、宍倉正展、林豊、石辺岳男(以上、幹事)、岡村健太郎(旧幹事)、中村操、植竹富一(以上、監査役)

1. 入退会者の承認

1名(竹田誠氏)から入会届けがあった旨の報告があり承認した。その結果、現在の会員数は308名となった。

2. 2016年大会のまとめ

1日目9/11の参加者は会員38名、非会員8名、地元参加者8名の計54名、2日目9/12の参加者は約52名、巡検参加者は35名だった。

決算は収入1,197,200円、支出1,237,133円となり39,933円の赤字となった。

「吉里吉里かるた」を吉里吉里二丁目町内会から提供された。岡村が今回の大会運営に協力してくれた関係者に配布することにした。

3. 2017年大会の準備状況

2017年9月15日(金)-17日(日) つくばイノベーションプラザ大会議室 100名収容

懇親会(15日晚) ホテル東雲

後援 産業技術総合研究所(手続き準備中)

巡検 17日に日帰りを実施予定。以下の3案を検討中。

候補1 つくば研究所めぐり 日曜日非公開の研究所見学が可能か不明

候補2 鹿島、銚子周辺 鹿島神宮・要石、1677年延宝津波、2011年津波旭市被害など

候補3 北茨城周辺 六角堂の復興など2011年津波被関連など

公開講演会

つくばでは講演会などの機会が多いため今回は開催しない。

巡検について以下の意見が出された。

1は2008年に回っているので参加者が少なそう。

3はつくばから150km以上離れていて遠く移動時間が長い。

2は伊能忠敬の記念館など他にも候補となる場所がある。

その結果、2を有力候補として、移動・見学時間を詰めた行程案を作成し、次の幹事会で審議する。

大会用メーリングリストは今年は気象研究所で作成する。登録メンバーは宍倉、小松原、石辺、林豊の4名。

2018年大会は大分での開催を検討中。現地関係者との打ち合わせを進めている。

4. 編集出版委員会関係

1) オンライン版公開

本年5月に発行した31号のオンライン版を12月中の公開に向けて準備中。今年度のものから解像度をあげる。

2) 来年5月発行予定の32号の編集状況

アンケートなどから査読原稿は10編程度の投稿にとどまる予想で、ここ数年の中ではもっとも少なくなる見込みである。

5. 広報委員会関係

ホームページの更新、メーリングリスト *musha* のメンバー追加を行い、迅速な情報の提供に努めた。

6. 引き継ぎ事項

現在の総会の議決権は総会出席者のみに限られているため、委任状に対応する規約改正案を作成する。来年のつくば大会の総会に諮れるよう準備する。文案などは総務委員長(林能成)が作成する。

7. 次回幹事会の日程

2017年4月第1週～第2週に開催。年明け頃に日程調整を行う。

次回幹事会では下記の議題を扱うので関係者は資料の準備を進める。

1. 規約改正案(総務)
2. 2018年大会の開催地決定(会長・副会長)
3. 雑誌編集に関する進捗状況(編集出版)
4. 2017年大会の巡検行程(行事)

2016年度 第3回幹事会議事録

日時:2017年4月10日(月)17:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:松浦律子(会長)、小松原琢(副会長)、林能成、内田篤貴、宍倉正展、林豊、石辺岳男(以上、幹事)、中村操、植竹富一(以上、監査役)

1. 入退会者の承認

3名(田中大二郎氏、沼田清氏、木下恭子氏)から入会届け、2名(蟹江康光氏、下川雅弘氏)から退会届けがあった旨の報告があり承認した。その結果、現在の会員数は309名となった。

2. 2017年大会の準備状況

会場として予定している「つくばイノベーションプラザ」を9/15-9/17の3日間で使用申請済み。15日研究発表会・懇親会、16日研究発表会・総会、17日巡検を行う。

運営補助のためのアルバイト2名×2日×10000円=40000円の予算を計上したい。

懇親会はホテルグランド東雲で予約済み。60名、会費6000円、学生割引適用の予定。

巡検。貸切バス利用。8:30出発、鹿島・銚子方面の歴史地震や2011年東北地方太平洋沖地震に関連した場所を巡り、17:30頃つくば駅で解散予定。貸切バスの見積もりをとったところ参加費6000円、定員40名程度で実施できる見込み。これから巡検候補地を下見してコースを確定する。巡検案内作成ならびに巡検案内者は今後検討する。

講演プログラムは小松原副会長が中心となって編成する。

3. 2018年大会について

・大分市で開催すべく打ち合わせを進めている。

・9/22土～9/24月の3連休で、会場は大分市ホルトホールの約150人収容の会議室。

・会場を3日間使用する場合は既に予約可能。2日間の場合は今年の7月から予約可能だが、それまでに3日間の予約が入ると使えなくなる危険性あり。

・22～24の3日間借り、22午後に公開講演会、23-24が研究発表会・総会。25火に巡検を行うプランを第一希望として調整を進める。

・行事委員長は関係者と調整の上、次回幹事会までに決定する。

4. 「歴史地震」の編集状況について

・31号のオンライン版を2016年12月に公開した。

・32号の編集状況。論説5編の査読が終わり、同1編がほぼ査読終了。資料2編、報告6編も受付完了。GW前に編集委員会内の校正、GW中に最終編集作業をして、GW明けに脱稿。発行は5月末日の予定。180ページ程度になる見込み。

・研究会だよりの執筆を総務担当幹事に依頼する。

・*musha*の規約を今号に掲載する予定。

5. 会則改正について

現在の会則の主な問題点

1. 総会決議に委任状が認められていないため、遠隔地開催で参加が難しい総会では意志表明をできない会員が多い。

2. 会員数が300名を超え、総会成立要件である「会員数の1/10」が出席できない可能性もある。

3. 会計年度が9月始まり8月締めのため、9月中旬に総会を開催するスケジュールでは会計監査や会員への事前の資料配布が困難。

4. 会則改正に必要な定足数は定められているが、その他の決議に必要な定足数は定められていない。

上記の問題点を改善するための会則改正案が総務幹事から出され、議論がなされた。

・委任状を認める。

・発送・集約の手間を減らすため電子メールによる委任状の可能性を探る。

- ・雑誌「歴史地震」の発行スケジュールも考慮して、1ヶ月前倒して8月始まり7月締め会計年度とする。
 - ・会のホームページで事前に総会資料を提示し、それを元に委任状の意思決定ができるようにスケジュールも改める。
- 次回幹事会で総会に提示できる案を審議できるよう、総務幹事が会則改正案を作成する。

6. ホームページの更新などについて

- ・ホームページの更新、メーリングリスト **musha** のメンバー追加を行い、迅速な情報の提供に努めた。
- ・2017年大会の周知を他学会に対して実施した。
- ・「歴史地震」1-14号の電子掲載の進め方について、次回の幹事会で議論する。

7. 編集出版委員会の運営について

林豊幹事が異動のため、次年度は委員長を継続するのは難しくなった。今年度は編集作業がほぼ終わっているのでこのまま継続する。次年度の委員長候補者を次回幹事会で決める。

8. 次回幹事会の日程

8月中旬に開催する予定だが、5月末締め切りの投稿申し込みの状況を見て、特別な対応が必要になった場合には6月末に開催する。

4. 第34回歴史地震研究会（2017年9月15～17日、つくば大会）関係

第34回歴史地震研究会申し込み案内

■第34回歴史地震研究会（つくば大会）のお知らせ（第2報）

歴史地震研究会では、以下の日程で第34回歴史地震研究会（つくば大会）を開催することになりました。講演申し込みの締め切りは5月31日（水）、懇親会、巡検参加申し込みの締め切りは7月31日（月）です。

1. 場所

つくばイノベーションプラザ 大会議室
茨城県つくば市吾妻 1-10-1（つくばエクスプレス「つくば駅」から徒歩3分）

2. 日程

2017年9月15日（金）～9月17日（日）の3日間

15日 研究発表会・懇親会

16日 研究発表会・総会

17日 巡検

研究発表会では大会参加費として1500円を徴収する予定です。

懇親会はホテルグランド東雲（つくば駅より徒歩8分）で開催します。

3. 巡検（鹿島・銚子方面）

8:30頃つくば駅前からバスで出発し、鹿島・銚子方面の歴史地震や2011年東北地方太平洋沖地震に関連した場所を巡り、17:30頃つくば駅で解散の予定。

参加費：6000円程度の予定（昼食・保険含）

定員：40名程度（予定）

4. 講演申し込み

発表者（共同研究の場合は全員の名前と発表者名）・題名・発表形式（口頭・ポスター・どちらでもよい、のいずれか）を明記の上、5月31日（水）までに行事委員会あてに電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申し込みください。

講演要旨について

発表1件につきA4サイズ1ページ（厳守）、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした歴史地震研究会講演要旨の標準形式（Wordファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ、原則としてWordファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月31日（月）必着といたします。原稿の送付先は講演申込先と同じです。

講演申し込み先・要旨送付先

電子メールの場合：rekishi2017@mri-jma.go.jp

第34回歴史地震研究会行事委員会：

宍倉正展（委員長）・小松原琢・伊尾木圭衣

手紙・FAXの場合：

〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所活断層・火山研究部門内

第34回歴史地震研究会行事委員会 宍倉正展

FAX 番号 029-861-3803

5. 懇親会・巡検申し込み

巡検・懇親会の参加申し込みは7月31日(月)までに講演申し込みと同じく、行事委員会あてに電子メール・手紙・FAX のいずれかでお申し込みください。巡検への参加申し込みにあたっては、保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯番号可)をお知らせください。

6. その他

- ・発表形式はご意向に沿えない場合があります。
- ・今大会では公開講演会はありません。
- ・つくば駅周辺および隣の研究学園駅周辺にはホテルが各種ございますので、各自でご予約ください。
- ・各種お問い合わせは上記講演申し込み先へご連絡ください。
- ・大会の情報はホームページ上で随時更新いたします。

第34回歴史地震研究会 プログラム等

歴史地震研究会第34回大会(つくば大会)の講演申込は締め切りました。プログラムは編成中です。決まりましたら、歴史地震研究会ホームページ(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>)でお知らせします。

5. 各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では、通年、投稿を受け付けておりますが、2018年5月末発行予定の次号(第33号)に掲載希望の方は、2017年11月30日(木)必着でご投稿をお願いいたします。なお、投稿を受付済みで未掲載の記事は、次号への掲載希望として取り扱っております。

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、資料、講演要旨、報告、紹介を取り扱います。頁数の上限は、論説と資料は20頁、講演要旨は1頁、報告と紹介は4頁ですが、超過が認められる場合もあります。編集出版委員会では、第32号を次の記事を中心に構成する方針です。

- (1) 2017年9月の第34回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
- (3) 2017年9月の第34回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨

これらのうち、(1)、(2)の投稿をお待ちしています。

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

- (1) 編集出版委員会で編集作業を進めます。
- (2) 論説および資料については、査読制を取り入れていますので、基準を満たさない記事は掲載できません。少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
- (3) 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準書式」を定めています。最新の標準書式に従ったWordファイルが歴史地震研究会のウェブサイト(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>)からダウンロードできますので、このファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします。
- (4) 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
- (5) 「投稿シート」(次頁に記載)に必要な事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。最新の様式の「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
- (6) 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版が歴史地震研究会のウェブサイトでオンラインジャーナルとしても一般に公開されます。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
- (7) 掲載料の頁単価は、モノクロページが1,500円、口絵のカラーページが23,000円です。ただし、投稿者が会員の場合は、1.に示した頁数までのモノクロページについては、無料です。
- (8) その他詳細は、編集規定をご覧ください。

3. 投稿先

- ・電子メールでご投稿の場合: histeq@erc.adeq.or.jp 歴史地震研究会編集出版委員会
 - ※ 添付ファイルが5MB以上の大きさになる場合には、CD-RまたはUSBメモリに入れてご郵送ください。
 - ※ 原稿を受領した場合は、必ずその旨の返信をしております。一週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。
- ・郵送でご投稿の場合: 〒101-0064 千代田区猿楽町1-5-18 千代田ビル 8F
地震予知総合研究振興会内歴史地震研究会編集出版委員会 宛
 - ※ 郵送で投稿する場合は、確認のため、上記アドレスにも連絡して下さい。
- ・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」をご提出ください。

『歴史地震』投稿シート

ver.201604

<基本情報>

記事の種類	論説・資料・報告・紹介 ※ 論説および資料の場合は、査読の対象となります。	
記事タイトル		
著者		
投稿者(連絡責任者)	氏名	
	所属	
	郵便番号・住所	〒
	電話番号	
	電子メールアドレス	

<質問・チェック事項>

記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、発表年および開催場所をご記入ください	
※ 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることがあります(論説、資料の場合)。	

体裁・形式について

(3) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準書式のWordファイルを書き換えて作成したものでしょうか？	はい・いいえ
<p>・「いいえ」の場合、以下の標準書式に従っていることを十分に確認してください。標準書式からのずれが大きい原稿は、編集出版作業に手間がかかりすぎるため、受け付けられないことがあります。</p> <p><input type="checkbox"/> A4 サイズ、左右の余白各2cm、上下の余白各2.5cm</p> <p><input type="checkbox"/> フォントは和文が明朝体、英文がTimes</p> <p><input type="checkbox"/> 文字サイズは、和文タイトル16pt、英文タイトル12pt、所属・著者名10.5pt、英文要旨10.5pt。</p> <p><input type="checkbox"/> 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードの下でセクションを切り替え、本文は2段組とする。段の横幅は8cm、段の間は7mm程度、1行22文字、1ページ45行とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 本文の文字サイズはすべて10.5pt。</p>	
(4) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題、英文の著者名・所属、英文要旨(200語程度)、英文キーワードを備えていますか？	はい・いいえ・該当しない
(5) 句読点は「、」と「.」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい・いいえ

(6) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	ない・ある
(7) 西暦1582年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい・いいえ・該当しない
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい・いいえ

図・写真について

(8) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい・いいえ
(9) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい・検討中・いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
<p>※ カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。モノクロとカラーで図の内容・サイズを変更することはできません。なお、カラー頁料金が追加の掲載料が発生します。</p> <p>※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開されるオンラインジャーナル(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。</p>	
(10) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷に必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい・いいえ・図はない

歴史地震研究会会誌編集規定

(2007年10月4日制定, 2009年7月23日一部改定, 2012年8月8日一部改定, 2016年4月22日一部改定)

総則

1. 本規定は、歴史地震研究会(以下、本会)の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、Historical Earthquakesと表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、この過程での使用言語は日本語とする。詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 会誌の発行形態は冊子体および電子版とし、両者の内容は同一とする。各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌の電子版は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。
9. 記事の著者は、個人ホームページおよび所属機関リポジトリページ等において、記事の電子ファイルを公開することができる。ただし、以下の点をすべて満たすことを条件とする。
 - (1) 会誌の電子版の記事を改変せずに用いること。冊子版の記事をスキャンして作成した電子ファイルの公開は認めない。
 - (2) 記事の著作権の本会への帰属を明記すること。
 - (3) 記事の出典を明記すること。
10. 本規定の改定および廃止は、歴史地震研究会幹事会の決定によること。

細則

(原稿の種別と構成)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
 2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。3. 記事の刷り上り時の分量はA4判で、論説・資料は3～20頁、講演要旨は1頁、報告・紹介は4頁以下、既発行の記事の訂正は1頁を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
 4. 記事の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文200語程度)・キーワード(英文5語程度)、本文(和文、図・表を含む)、謝辞、対象地震名、引用文献で構成する。ただし、いずれの原稿の種別においても、謝辞、対象地震名、引用文献に記述すべき事項がない場合は省略する。また、報告・紹介では、表題・著者・所属の英文、要旨、キーワード、対象地震名を省くことができる。
 - (2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。
- (著者)
5. 著者全員が投稿された原稿の全内容について合意していなければならない。ただし、謝辞において各著者の責任範囲が明記される場合は、この限りではない。
 6. 著者は、記事に関する研究について利害関係がある場合は、謝辞においてその事実を開示しなければならない。
- (投稿者)
7. 投稿者は著者のうちの一名であり、編集担当者との連絡に責任を持つ会員である。ただし、編集出版委員会は非会員に原稿の投稿を依頼することができる。
 8. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿1部を提出する。A4判

の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される。

9. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
10. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
11. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
12. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
13. 投稿者は、以下に定める掲載料を支払わなければならない。掲載料の頁単価は、編集出版委員会が既発行の会誌の実績額から算出するものとする。ただし、依頼による執筆の場合は、以下によらず、掲載料は無料とする。
 - (1) 全頁モノクロであり、かつ細則3に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。
 - (2) カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分の掲載料とする。
 - (3) 標準の頁数を超過した場合、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額を超過頁分の掲載料とする。
14. 原稿の提出後から掲載までの間に投稿者に事故ある場合は、著者のうちから投稿者を交代して、査読手続き等を継続することができる。
(編集担当者)
15. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。著しく不備があるか、判定に足る情報が提供されない原稿については、原稿の受付を拒否できる。
 - (1) 明白な誤りや不正がないか
 - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
 - (3) 記事の種別が適切か
 - (4) 原稿の量が適切か
 - (5) 査読と編集の作業の効率を著しく低下させる書式になっていないか
16. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則15項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。なお、掲載に至った経緯を明記する必要がある場合は、原稿の文末に编者注を付けることができる。
 - a) 掲載可
 - b) 修正を条件に掲載可
 - c) 修正後に再査読し、その後再度判定
 - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
 - e) 掲載不可
 - f) 原稿種別の変更ただし、原稿の不備が改善しようと期待できる場合はb)、原稿種別を変更すべき場合はb)、原稿に相当大幅な修正を要する場合はc)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合はd)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合はe)、細則1項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合にはe)、査読手続きを完了できなかった場合にはd)からf)のうちいずれか、原稿種別を変更して掲載する場合にはf)と判定する。
17. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。
(査読者)
18. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
19. 査読者数は、論説・資料は2名以上とする。ただし、投稿日まで1年6か月以内の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を1名とすることができる。編集出版委員会が査読者を選定し、依頼する。
20. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
21. 査読を依頼され、専門分野、利害関係などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者に通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
22. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則2の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。
(その他)
23. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
24. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則(2007年10月4日)略

付則(2009年7月23日)略

付則(2012年8月8日)略

付則(2016年4月22日)

1. 本規定は、総則は2016年発行の『歴史地震』第31号より、細則は2017年発行の『歴史地震』第32号より適用する。

歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と、特集した地震をまとめた。なお 2017 年以降は予定である。

回	年	場所	特集地震	回	年	場所	特集地震
1	1984	東大地震研		18	2001	象潟	象潟
2	1985	東大地震研		19	2002	立山	飛越
3	1986	東大地震研		20	2003	佐倉・九十九里	元禄
4	1987	東大地震研		21	2004	鳥羽	安政東海
5	1988	静岡		22	2005	江戸東京博物館	安政江戸
6	1989	東大地震研		23	2006	大船渡	明治・昭和三陸・チリ津波
7	1990	大阪		24	2007	下田	安政東海
8	1991	徳島		25	2008	つくば	関東
9	1992	東大地震研		26	2009	大津	姉川・元暦
10	1993	江戸東京博物館		27	2010	東大地震研	
11	1994	須崎	安政南海	28	2011	新潟	名立崩れ
12	1995	田老町	明治・昭和三陸	29	2012	横浜	関東
13	1996	田辺	昭和南海	30	2013	秋田	
14	1997	島原	島原	31	2014	名古屋	東南海
15	1998	浜名湖	明応東海	32	2015	京丹後	北但馬・北丹後
16	1999	伊賀上野	伊賀上野	33	2016	大槌	
17	2000	長野	善光寺	34	2017	つくば	

諸手続き(入会・住所等変更など)のご案内

歴史地震研究会への入会と会誌「歴史地震」の送付を希望する方は、会則をよくお読みのうえ、所定の用紙を以下の連絡先に郵便・ファクス・電子メールのいずれかでお送り下さるとともに、郵便振替口座に年会費 4000 円をご送金ください。

(連絡先)

日本物理探鑛(株)関東支店 内田篤貴(当会財政委員長)

〒143-0027 東京都大田区中馬込 2-2-12

FAX.03-3774-9353 電子メール:auchida@n-buturi.co.jp

(会費振込先)

郵便振替口座番号 00130-9-183798

口座名義:歴史地震研究会

連絡先変更あるいは「歴史地震」の送付停止(退会)を希望する方は、上記連絡先に文書・ファクス・電子メールのいずれかでお知らせ下さい(電話での連絡はご遠慮ください)。

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 殿
歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
生年月日	年 月 日	性別	男 ・ 女
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
会誌送付先	1. 所属機関 2. 自宅		

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 希望する会誌送付先に○印を記してください。

名簿欄記入例（自宅情報は非開示，所属先に会誌送付希望の場合）

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
生年月日	19〇〇年 〇〇月 〇〇日	性別	男 ○ ・ 女
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 〇〇@〇〇. 〇〇	FAX: 00-0000-0002
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 〇〇〇@〇〇. net.jp	FAX:
会誌送付先	1. 所属機関 ○ 2. 自宅		

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正,
2008年9月14日改正, 2012年9月15日改正, 2015年9月22日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) 歴史地震研究に関する業績の表彰
- (5) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都千代田区猿樂町1-5-18 公益財団法人 地震予知総合研究振興会に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

- (1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除名)

第14条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第3章 役員

(役員)

第15条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 幹事 5名
- (4) 監査役 2名

第16条 会長は会員の中から総会で選出する。

2 会長候補者は3名以上の会員の推薦をもって立候補し、総会の1週間前までに幹事会に届け出るものとする。会長の任期は総会直後の11月1日から翌年10月末日までとする。

3 副会長および幹事は、総会で選出された会長が会員の中から委嘱する。

4 監査役は3名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出るものとする。監査役の任期は総会直後の11月1日から翌年10月末日までとする。

第17条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。

3 本会に総務委員会、財政委員会、行事委員会、広報委員会、編集出版委員会をおき、各委員会の長は幹事がつとめる。

4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。

5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第4章 総会および幹事会

(総会の招集)

第18条 総会は年1回、会長が招集する。総会は会員の10分の1の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第19条 総会では次のことを行う。

(1) 次期会長の選出

(2) 次期監査役の選出

(3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認

(4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認

(5) 会則の改正

(6) その他

(幹事会)

第20条 幹事会は会長、副会長および幹事で構成する。幹事会は会長が招集し年2回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は構成員の2/3以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第5章 会計

(資産)

第21条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第22条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第23条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない。

(2015年9月22日改正以前の付則省略)

付 則

第1条 第10条による会費は、次の通りとする。

会員 4000円

第2条 本会則は、2015年9月23日から施行する。ただし、付則第1条は2016年度の会費から適用する。

組 織

総務委員会

文書の受付、配布、会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成、決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会、除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会功績賞内規

(2012年9月15日幹事会承認, 2014年9月8日変更)

第1条 本規定は、歴史地震研究会会則第3条(4)項に規定する業績の表彰に基づき、歴史地震研究の進歩・発展ならびに本会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方に贈る「歴史地震研究会功績賞」に関して定める。

第2条 本賞の対象は、本会会員とする。なお、本賞の既受賞者は対象から除く。

第3条 対象業績は歴史地震研究の進歩・発展、歴史地震研究会の発展に対するものとする。

第4条 授賞式は、総会など会員が自由に参加できる場において行い、受賞者に賞状を贈る。

第5条 功績賞選考委員会が受賞者の選考を行い、幹事会が決定する。功績賞選考委員会は、正・副会長、総務幹事、財政幹事から構成する。

附則; 1. この内規は、幹事会で変更することができる。

2. この内規は、平成24年9月15日より施行する。

メーリングリスト **musha** の使い方と規約

1996年7月31日制定, 1997年2月14日改訂, 1999年5月1日改訂,
2002年10月2日改訂, 2012年6月4日改訂, 2014年4月2日改訂

1. 名称

本メーリングリストの名称は **musha** という。先達の武者金吉(「増訂大日本地震史料」の編者)の名に由来する。

2. 目的

musha は、史料地震学および史料火山学(ならびにその関連分野)の情報交換をするためのメーリングリストである。なお史料地震学・史料火山学とは、地震または火山に関する諸問題の研究を、史料を通じて行う学問分野(自然科学, 人文科学, 社会科学の如何を問わない)をさす。また、ここでいう史料には文字史料のほかに考古学的資料ならびに地学的資料を含む。史料地震学・史料火山学およびその関連分野に無関係の内容を **musha** に投稿することは望ましくない。**musha** メンバー以外の不特定多数への転送依頼文を記したチェーンメールは、内容の如何を問わず投稿できない。

3. 運営および座長

musha は歴史地震研究会が運営し、座長は広報幹事が担当する。

4. 著作権

musha で配信されたメール(発信者独自の文章・データ・アイデア・考察など)の著作権はメールの発信者に帰属する。メンバー以外への転送・引用・公表には、発信者からの許可を要する。

5. 投稿方法・メールの配信

musha にメールを投稿するには、メンバーのみに周知するアドレスを宛先とすればよい。**musha** に投稿されたメールは、登録されているメンバー全員へ自動的に配信される。

6. メンバー登録

musha からのメール配信を希望する人は、座長にその旨を伝えればよい。史料地震学・史料火山学に関心を持ち、本規約を遵守することができる人は誰でも参加できる。**musha** に関する個別の質問・要望・意見および退会届も、座長にその旨を伝えればよい。座長のメールアドレスは musha-contact@maechan.net とする。

7. 争議

第2項または第4項に違反した行為が認められた場合は、その対応策を **musha** で議論する。対応策には、違反者のメンバー登録抹消や違反者への損害賠償請求を含む。史料地震学・史料火山学においては、研究に使用するデータに使用者のオリジナティが認められる場合が少なく(特に文字史料の場合)、データ解釈の独自性だけが研究の価値を決める場合が多い。このことに起因する成果盗用などのトラブルを防ぐため、このような厳格な取り決めとする。

8. 変更

この「使い方と規約」の変更は歴史地震研究会・幹事会で議論のうえ実施し、**musha** を通じてメンバーに周知する。

歴史地震研究会役員および委員名簿

(2017年6月1日現在)

役員名簿

会長 松浦律子
副会長 小松原琢
幹事 林 能成, 内田篤貴, 宋倉正展, 石辺岳男, 林 豊
監査役 植竹富一, 中村 操

委員名簿

総務委員会 委員長 林 能成
財政委員会 委員長 内田篤貴
行事委員会 委員長 宋倉正展 委員 小松原琢, 伊尾木圭衣
広報委員会 委員長 石辺岳男
編集出版委員会 委員長 林 豊 委員 白石睦弥, 西山昭仁